

麻疹（はしか）患者の発生について

令和8年3月9日（月曜日）に都内で麻疹患者（検査診断例）の発生がありました。
管轄保健所において疫学調査を実施し、接触者の健康観察を実施しています。
また、患者の行動歴を確認したところ、周囲に感染させる可能性のある時期に下記の施設において不特定多数の方と接触した可能性があることが判明しましたのでお知らせします。

【患者の概要】

性別	年齢	症状	海外 渡航歴	ワクチン 接種歴	発病日
女性	30代	発熱、咳、発しん	無	不明	3月6日

【患者が利用し、不特定多数の方と接触した可能性のある施設】

3月5日（木曜日）

東京労働局渋谷公共職業安定所

2階職業相談窓口及び3階雇用保険給付課 16時から16時20分頃

※当該施設へのお問い合わせは御遠慮ください。

上記日時に当該施設を利用された方は、体調に注意し、麻疹を疑う症状（発熱、発疹、咳、鼻水、目の充血等）が現れた場合は、必ず事前に医療機関に連絡し、麻疹の疑いがあることを伝えてください。受診の際は公共交通機関の利用を控えて医療機関の指示に従って受診してください。

本情報提供は、感染症の拡大防止のために行うものですので、患者及び患者家族等の個人情報については、プライバシー保護の観点から本人等が特定されることのないよう、格段の御配慮をお願いいたします。

<都民の皆様へ>

- 麻疹は感染力がきわめて強い感染症で、典型的には、感染すると約10～12日の潜伏期間の後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れ、2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。発症前日から周囲への感染力が生じると言われています。
- 麻疹は予防接種で防げる病気であり、ワクチン接種は個人でできる有効な予防方法です。麻疹の定期予防接種（第1期：1歳児、第2期：小学校就学前の1年間）をまだ受けていない方は、かかりつけ医に相談し、早めに予防接種を受けましょう。
- 麻疹は感染力が強く、昨年から国内での報告数が増加しており、海外渡航歴のない場合も感染が確認されています。体調が悪い場合、特に発熱している方は外出、移動、人に会うことを控え、自宅等で療養してください。
- 海外に渡航し、帰国後3週間以内に発熱や発疹などの麻疹を疑う症状がある場合は、かかりつけ医または医療機関にまず電話で相談してください。受診の際は、必ず事前に受診先医療機関に海外渡航歴及び麻疹の疑いがあることを連絡の上、公共交通機関の利用を控えて、医療機関の指示に従って受診してください。

(麻疹に関する基礎知識や予防接種及び相談について、詳細はこちら➡)



(参考) 厚生労働省リーフレット：「麻疹（はしか）」は世界で流行している感染症です。

【出国前】



【帰国後】



「麻疹（はしか）」は世界で流行している感染症です。

国	発症数
インドネシア	14,405
イエメン	9,277
モンゴル	8,483
パキスタン	8,310
インド	8,184
アンゴラ	5,823
ナイジェリア	4,676
メキシコ	3,164
ロシア連邦	2,939
ロシア連邦	2,859

WHO(世界保健機関) 麻疹発症数 (2025年6月～2025年11月)

日本国内で発生された麻疹症例の推定感染地域

- インドネシア (7割)
- インドネシア/フィリピン (1割)
- フィリピン/インドネシア (1割)

海外へ行く前に

- ✓ 麻疹の予防接種歴を母子手帳などで確認しましょう
- ✓ 定期接種を受けていない方は、接種を検討してください

厚生労働省 2025/02/19刊行

海外から帰国された方へ 帰国後2週間程度は麻疹発症の可能性を考慮し健康状態に注意してください。

国	発症数
インドネシア	14,405
イエメン	9,277
モンゴル	8,483
パキスタン	8,310
インド	8,184
アンゴラ	5,823
ナイジェリア	4,676
メキシコ	3,164
ロシア連邦	2,939
ロシア連邦	2,859

WHO(世界保健機関) 麻疹発症数 (2025年6月～2025年11月)

日本国内で発生された麻疹症例の推定感染地域

- インドネシア (7割)
- インドネシア/フィリピン (1割)
- フィリピン/インドネシア (1割)

帰国後2週間程度は

- ✓ 高熱や全身の発しん、せき、鼻水、目の充血などの症状に注意しましょう

厚生労働省 2025/02/19刊行

【問合せ先】

- 患者発生に関すること
保健医療局感染症対策部防疫課防疫担当 電話 03-5320-4088
- 検査の技術的部分に関すること
東京都健康安全研究センター微生物部 電話 03-3363-3231

(参考) 麻疹 (はしか) とは

1 麻疹とは

麻疹は、麻疹ウイルスによる感染症であり、感染症法上の五類感染症です。

2015年には世界保健機関西太平洋事務局(WPRO)より日本は麻疹排除状態であると認定され、近年の麻疹の発生は輸入症例を端とするものとなります。

世界でも、麻疹の排除(elimination)に向けて、予防接種率の向上等の麻疹対策が強化されていますが、途上国では、いまだに5歳以下の子どもの主な死亡原因となっています。

2 原因と感染経路

病原体は、麻疹ウイルス(measles virus)です。

空気感染が主たる感染経路ですが、その他に、患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛まつ感染」、およびウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」もあります。

発症した人が周囲に感染させる期間は、症状が出現する1日前から発疹消失後4日くらいまでとされています。なお、感染力が最も強いのは発疹出現前の期間です。

3 症状

感染力はきわめて強く、麻疹に対する免疫を持っていない人が、感染している人に接すると、ほぼ100%の人が感染します。感染しても発症しない不顕性感染はなく、全て発症します。典型的には、約10～12日間の潜伏期間の後、38℃程度の発熱及びかぜ症状が2～4日続き、その後39℃以上の高熱とともに発疹が出現します。主な症状は、発熱・発疹の他、咳、鼻水、目の充血などです。

また、合併症として、肺炎、中耳炎、稀に、脳炎、失明等があり、肺炎や脳炎は、重症化すると死亡することもあります。死亡する割合も、先進国であっても1,000人に1人とされています。一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

4 治療

特別な治療法は無く対症療法が行われます。感染初期であれば、緊急ワクチン・免疫グロブリンの投与により発症を防止できる可能性もあります。

5 予防のポイント

有効な予防法は、麻疹含有ワクチン接種です。

予防接種法に基づく定期予防接種が計2回(1回目:1歳～2歳未満 2回目:小学校入学前の1年間)行われていますので、対象者の方でまだ接種が済んでいない場合は早めの接種をお願いします。

令和6年度接種率 第1期(1歳児):94.5%

第2期(小学校就学前の1年間):90.4%

(参考) 都内における麻疹患者発生状況

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
東京都	23	124	2	0	0	10	10	34	27
全国	279	744	10	6	6	28	45	265	87

※東京都の2026年は3月12日までの届出数

※全国の2026年は第9週(2026年2月23日～3月1日)までの累積速報値